

# 障がい者雇用促進

## 障がい者雇用 先進企業の取り組み紹介



スーパーバロー各務原中央店で働く平野真依さん

### 株式会社 バローホールディングス

スーパーマーケットなどさまざまなチェーンストア事業を展開しているバローホールディングスは、2001年に専任の採用担当を置いたことをきっかけに、障がい者の雇用を力を入れるようになった。最長10日間の職場体験実習をしてもらう県の「障がい者チャ

## 体験実習充実、働く場広がる

店舗によって労働環境が大きく変わるのではないように配慮。バロー人事採用部の山崎睦美さんは「実習で自信をつける」と話す。店長として

平野さんは「最初のころは指示されてもよく分からず、どう動けばいいのかと思った」と振り返る。強化を図る。

梅村人材開発センター長は「働きたい人がいればバローの実習を受けてほしい」と呼び掛け、「やりがいや居場所を見つけることで精神が安定して向上心が芽生える。そのためには職場の環境を整えることが重要」と話す。今後の展望として、グループ会社の採用担当との情報共有と採用・定着活動への指導を強化することで、東海圏以外のエリアでのネットワーク強化を図る。



介護施設でマッサジ師として10年以上勤務する西本修さん

### 社会福祉法人 杉和会

不破郡関ヶ原町と大垣市で介護施設などを運営する社会福祉法人杉和会は、県の本年度障がい者雇用優良事業所等表彰で、知事表彰を受けた。雇用の際には面談で本人の適性を見極め、目標設定を行い、個々の状況に応じた勤務時間や業務内容を決める。現場で作業

## 働き方工夫、やる気引き出す

す。普段の生活では車いすを使っているが、職場では松葉づえを使いながら仕事をしている。杉和会の若山宏理事長は、北村さんをつかりと仕事をしたいタイプ。責任感が強く、黙々と頑張れる」と評価する。

若山理事長は「障がいがあるから何もできないわけではない。できることを活かして活躍できる職場を築く。」

今ではフロア管理を任せられる存在になっている。「うちの貴重な戦力。特別支援学校の時から手際もよかった」と成長ぶりに目を細める。「杉和会ならこんな仕事がある、こんな仕事ができるという場所になりたい」と話し、今後もさまざまな人が活躍できる職場を築く。



岐阜農林高校との連携事業でマクワウリを栽培するはっぴいまるけの従業員たち

### J A ぎふ 特例子会社 はっぴいまるけ

位J Aで初の試みで、障がい者18人が農業班と事務作業班に分かれて働いている。農業班では、地域に根差した農を通じた事業を行い、障がい者の居場所の核となる存在を目指して、農作物の栽培や生産をサポート。本県市の農地で農業を行ったり、J Aぎふ関連施設や農家に向いての農作業など

## 農作物栽培や生産サポート

を担う。農業班の従業員からは「1人でできない作業を仲間とできる達成感がある」「知恵を出し合っている」と前向きな言葉が続く。はっぴいまるけは、障がいのある子どもたちを対象とした農業体験を行う「まるけふあぐむ」や、収穫した野菜の販売をする「はっ

に慣れてやりがいを感じるし、同じ障がいのある人とお互いを助け合っている」と話す。また、社内で青色発光ダイオード(LED)を活用し、農作物を栽培している。J A本店1階ロビーにLEDライトの付いたラックを設置。季節や天候に左右されず、安定的な施設栽培につながる」と

はっぴいまるけの代表取締役社長である伊藤正人J Aぎふ代表理事専務は、今後の課題として「農業班と事務作業班の交流や他の職員との共生が大事」と話す。また、将来的な展望を若佐哲司J Aぎふ代表理事組合長は「健常者や障がい者に関係なく、一緒に働けるようなJ Aにしたい」と見据える。

を計画している。事務作業班は、J Aぎふ本店で清掃や事務作業などに携わる。清掃を担当する松本広美さんは「仕事を

て、LED栽培に着手した。野菜苗や花苗の栽培と販売で収益化の可能性を探る。これらの活動を通じて、高橋玲司統括部長は「職員一人一人の元気が出てきた」と実感。「各自の個性を発揮できる適所を見つけて働いてもらう『適所適材』の人事が大事」と言う。事務作業班で清掃を担当していた職員が、農作業班に異動したらより生き生きとしたケースもあった。

はっぴいまるけの代表取締役社長である伊藤正人J Aぎふ代表理事専務は、今後の課題として「農業班と事務作業班の交流や他の職員との共生が大事」と話す。また、将来的な展望を若佐哲司J Aぎふ代表理事組合長は「健常者や障がい者に関係なく、一緒に働けるようなJ Aにしたい」と見据える。